

国土交通大臣賞 <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名 (株) 鴻池組・熊谷建設(株) 特定共同企業体 小本川災害復旧工事
	取組の実践場所 岩手県下閉伊郡岩泉町
	受賞テーマ 現場内流木の有価物転化・建設発生土の有効利用へのアプローチ
<p>受賞者は、次のような活動を行った。</p> <p>1. 現場内流木の有価物転化（リデュース）</p> <p>(1) どのような3R活動か 受賞した工事現場は洪水防止を目的として河道有効断面を増やし流下能力を高めるべく、河川敷内を掘削・残土搬出する工事であった。 当初の設計では伐採工及びその処理については計上されていなかった。そこで伐採工の有無を確認すべく工事着手にあたり現地踏査したところ、現場内には伐採木だけでなく河川漂流物である大量の流木が存在することが確認された。通常であれば伐採木と流木、特に流木は浸水しているため産業廃棄物として処分される。この流木の廃棄物処分量の減少を目指した。</p> <p>(2) 取組のポイント、特長 通常であれば工事に伴う産業廃棄物として処理される流木を、製紙材料の有価物として搬出処理することで、産業廃棄物発生量を抑制した。</p> <p>(3) 他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところ 製紙工場と協議のうえ、材料として引取り可能とするため、以下の通り選別・処理し、出荷した。 ・末口10cm以上の材料 ・針葉樹・広葉樹を区分する事 ・2mに玉切りする事 尚、伐採木についても同様にして出荷した。 また出荷規格に満たないものについては、中間処理施設で破碎処理を行いセメント工場等のボイラー燃料として再資源化（リサイクル）を行った。</p> <p>(4) 今後の予定 上記活動は2019年度に実施したものであり、同工事は2021年度で竣工したため、今後の予定はない。しかしながら同工事を含めた事業は継続中であり、製紙工場稼働率が通常に戻った際には、他の工事でも今回と同様に活動することにより、事業としての産廃量減少に繋がる事を期待している。</p> <p>2. 建設発生土の有効利用へのアプローチ</p> <p>(1) どのような3R活動か 上記のとおり、同工事現場は河道有効断面を増やすべく河川敷内を掘削・残土搬出する工事であったが、当初設計で予定されていた残土受入場所は、計画の遅れにより受け入れられない状態となった。そこで施主と協力し、他の工事への利用を模索し搬出したが、工事以外の利用も考慮した。その結果、地域産業である畜産業の元となる牧草地の造成に着眼し、造成（盛土）計画を示すことで建設発生土を受け入れてもらうことを目指した。</p> <p>(2) 取組のポイント、特長 建設発生土を同工事・同事業内で使用することに捉われず、他工事・他産業（畜産業）で有効利用した。</p> <p>(3) 他の取組に比較して優れているところ、独自なところ、工夫したところ 現状の牧草地を盛土し、平坦にすることで作業効率が向上し、有効に利用できることを計画図として示すことにより、畜産事業者からも理解を得られ、建設発生土の搬出実施が可能となった。</p> <p>(4) 今後の予定 同工事は2021年度で竣工したため、今後の予定はない。しかし同じ事業内の他社の工事において、同工事で行った牧草地の隣接箇所と同様に建設発生土を搬出し、牧草地を改修中である。</p>	